令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【八王子中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)各教科における基礎的な知識・技能 (2)根拠を明確にしながら、自分の考えを伝えることができる思考力・判断力・表現力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)各教科の授業において、単元や領域の系統性を整理し、既習事項の復習を図る。各授業において既習事項の確認を行ことで学習が苦手な生徒が新たな学習に取り組みやすい環境を整える。また、今年度より、隔週にて朝学習の時間を取り入れた。朝学習において各教科の基礎的な課題にに取り組むことで、各教科の知識・技能に関する内容の定着率を高める。 (2)条件整理や理由説明を重視した活動を授業の中に意図的に位置付けるとともに、ICTを活用した対話的な学びを通して思考過程の可視化を図ることで、思考力・判断力・表現力の向上に寄与したい。

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語の「表現の工夫とその効果について，読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」問題や、数学の「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題にやや課題がみられた。一方、数学の「統合的・発展的に考え、事象の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題は難易度の高い問題であったが、正答率が5割を超えた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語・数学ともに思考・判断・表現における，記述式の問題にやや課題がみられた。また、これらの問題においては無回答率も高い問題もみられた。各授業において、自分の考えを記述する時間を設けたり、生徒同士で学び合いの時間をとることによって生徒の記述力を育みたい。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	各教科で基礎的な知識・技能の習得を図ったが、朝学習においては系統的な学習が行えない場面があった。後期については、生徒自身が課題を把握し、個別に課題を選択する場面を設定し、更なる知識・技能の習得を目指せる環境を整える。また、思考力・判断力・表現力の育成においては、各教科において条件整理や理由説明の時間は設けたが、教科によって実施時間に差がみられたので、2学期以降更なる拡充に努めたい。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	朝学習において、生徒が課題を設定し取り組める場面を設定し、個別最適な学習を行うことを目指す。思考力・判断力・表現力の更なる育成に向けて、条件整理や理由説明の拡充に加え、振り返り活動に重点を置く。自らが考えたことを表現する時間を設けることで、更なる思考力・判断力・表現力の育成に寄与したい。	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）